

令和4年度 第11回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議

《議事概要》

開催日 : 令和5年3月30日(木)

開催時間: 開会 午後3時30分 閉会 午後5時00分

開催場所: 水道部庁舎3階会議室 + Web

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	一般財団法人 計量計画研究所 代理理事	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	
	小泉 秀樹	東京大学 教授	
	福井 恒明	法政大学 教授	
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 副会長	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	欠席
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 直前会長	
交通事業者	深見 健史	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 部長	
	井原 一泰	富士急シティバス株式会社 取締役社長	
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	齋藤 幸治	静岡県 沼津警察署 交通官	
	望月 康史	静岡県 交通基盤部 都市計画課 課長	代理出席
	長谷川 孝幸	静岡県 沼津土木事務所 都市計画課 課長	代理出席
	南木 宏和	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長	
	吉澤 勇一郎	沼津市 副市長	
	関野 勇治	沼津市 まちづくり統括監	
	真野 正実	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	八木 健一	沼津市 産業振興部 商工振興課 課長	代理出席
	杉山 泰彦	沼津市 建設部 部長	
オブザーバー	角田 陽介	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	Web 参加
	大島 常生	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	Web 参加

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 事務局からの説明
 - (1) 三枚橋錦町線西側区間の整備に向けて
 - (2) OPEN NUMAZU 2022 ARCADE の実施結果
 - (3) 沼津市中心市街地まちづくり戦略の情報発信
- 4 意見交換
- 5 閉会

<議事概要>

小泉氏 直近の取組や来年度の取組の方向性は概ね理解できたが、中期的な取組の中での位置づけが気になっている。今後の展開に向けて、それぞれの事業の進捗状況が全体の事業のスケジュールの中でわかると、今年度の成果と来年度にやるべきことがより明確になると感じた。

また、まちづくりの WEB サイトについては非常に画期的な取組であるので魅力的な WEB サイトにしていただきたい。参考情報だが、デシディム (<https://decidim.org/ja/>) という市民参加で議論するシステム（バルセロナで開発されたもの）を活用して、自治体が市民と継続的に議論を展開する取組が各地で利用されている。類似のものが WEB サイトにあると議論が可視化されるためよい。スマホや PC から使用できる WEB 上の会議室のようなもので、議論がしやすくなっている。オープンソースのため既存のシステムを活用できるので、使ってみてもよいのではないか。

森本氏 資料2の p19 の R5 パークレットの内容については是非やっていただきたいが、R6 年以降は常設的に設置することを想定した社会実験を考えていただきたい。市民の方に長い期間使っていただくことを想定してほしい。

また、警察の方とも協議が必要だが、街路の中央部のゼブラゾーンが余剰空間となってもったいないので、道路線形を見直してほしい。車両の速度を落とさせながら、ゼブラゾーンの空間を歩道側へ割り振ることができれば、パークレットの拡幅も可能になると思う。将来的にはそのような使われ方が望ましいと思われるので、実施設計段階で警察とよく協議してほしい。

それから資料4の情報発信について、スマホで情報を得る市民が多いと思うので、様々な媒体で展開してほしい。また、3次元のデータを沼津市のスマートシティ戦略やDX戦略と連携して、プラト一等のモデルの中に将来像を落とし込んで可視化することで、市民が自由に見て意見交換するような手法もある。情報発信は一過性のものでなく、データベース化して資産にできるような取組にしてほしい。会津若松など

では、CGなどを先進的に取り入れている。宇都宮でも取り入れる予定である。

岸井氏

メタバースなどはゲームの世界のようだが、プラトーはより現実に近いようなイメージか。

森本氏

メタバースの方が進んでいる。バーチャル渋谷や池袋では自分自身が中に入り込んで買い物などができる空間が出来つつある。将来的にそこまで行くのは長いと思うが、プラトーならば入りやすい。

事務局

パークレットについて補足すると、実施は令和5年10月～令和7年3月までを考えている。

福井氏

原駅の駅前広場のオープンや今後の沼津港周辺の再整備等、沼津の各地で様々な取組が動き始めており、市民もわくわくする機会が増えると思う。各地の動きが連携していく、新しいモビリティでつながるとか、そのようなネットワーク化が広がっていくことをどこかでまとめていくと、市民の期待感が高まると思うので示してほしい。

事務局

昨年9月17日～10月16日に電動キックボードでの取組を沼津駅～沼津港の間で運用し、11月11日～20日には自動運転バスの社会実験も行っている。引き続き、モビリティについて考えていきたい。

岸井氏

地元からの意見はどうか。

高田氏

情報発信が一番重要になると考えているので、提示いただいた発信ツールはわかりやすくなってきていると思う。一方で、鉄道高架化に伴うまちづくりが20年～30年先ということを考えると、20年後にまちの中心になる今の若い人に情報を届ける方法を考えなければならない。仲見世商店街での社会実験はハードが伴わなくても継続して行える取組のモデルであり、継続することで市民に浸透していくと思う。情報発信ツールを揃えるだけではなくて、受益者、特に若い人たちに情報を届けて関わってもらえる仕組みを考えてほしい。

岸井氏

若い人たちにどうやって伝えて、まちづくりに関心をもってもらうか。できれば参加してもらって、自分たちのまちを自分たちで作っていくことを提供できるとよい。

佐藤氏

第一校区について、西側の錦町はまちづくりの取組に対する関心が低いと感じていて、同じ校区内でも温度差がある。特に高齢者はほとんど参加していない印象を受ける。情報発信だけでなく、どのように人を巻き込んでいくかを考えてもらいたい。

岸井氏

商工関係からの意見はどうか。

曾根原氏

20代、30代へざっくばらんに計画への意見を聞いてみる場を作ることが必要だと思う。興味のある人は多いと思うので、市の方でオープンに参加を募集してみてもどうか。

岸井氏

今回の参加者はどのように募ったのか。また、その後どうなっているのか。

事務局

社会実験におけるプレーヤーについては、新聞やインスタで公募しており、前回の社会実験時より参加者は増えている。今後も参画したい方との協働する方法を模索

したい。

また、来年度の社会実験の先には、将来的な三枚橋錦町線の車線減少を見据えている。駅前広場についても再整備を見据え、UR 敷地での場づくりについて協議している。社会実験を通して、多世代の意見を広く聞きながら段階的に進めていきたい。

情報発信について、鉄道高架に伴うまちなかの空間再編は段階的な取組であり、徐々に効果が発現してくるということを、情報発信ツール等を用いて伝えていきたい。また、小学生、中学生、高校生に対しても出前講座によって情報発信をしている。ご年配の方には病院や自治会で広報していきたい。

岸井氏

参加者に情報提供し、常に関わってもらえるような手法を作っていかなければならない。

芦川氏

風の問題については警察のお世話にもなったが、大きな問題なく終えることができた。パークレットの設置については、1～2年といわず、長期で常態化してもらえるとありがたい。私ならこうやる、俺ならこうやる、という意見を持っている人が出てきていることがとてもありがたいと思っている。

また、風よけとして8mくらいの樹木を10m間隔で配置する計画になっているが、可能であれば香りがするような樹木を選定していただきたい。人工香料なども活用して樹木の香りを風に乗せて、まちの変化を肌感覚で体感していただけるような工夫があればよいのではないか。沼津に降りた時に、樹木の匂いがすると、沼津の駅前が変わるということが伝わるのではないか。

岸井氏

植樹についての絵は描けているか。

事務局

風対策のシミュレーションのみのため、時期や詳細は未定である。

岸井氏

交通関係からの意見はどうか。

深見氏

高架化の工事には非常に時間がかかるが、完成を待ってから動くのではなく、今からまちづくりをやっていくことが重要であると思う。高架化によって南北の往来がスムーズとなり、高架事業による効果が最大限発揮されるように準備してほしい。

資料3のp9の滞留者数のデータについて、滞留された方がどこから来られたのか知りたい。沼津市内の方が多いのであれば、今後の発展性があまり見込めない。遠方からの来訪者を取り込んでいく施策となっているのかという検証が必要である。

事務局

アンケートの回答者の65%が市内からの来訪者で、富士、三島、長泉、清水等の近隣地域が6.2%、静岡県内が6.2%、県外が18.6%であった。また、仲見世商店街は年配の方が多い印象だったが、アンケート結果では30代までが約半数を占めており、これまでと異なる利用者層を引き込めたことは社会実験の成果だった。

岸井氏

行政関係からの意見はどうか。

望月氏

高架化は順次行われていくので、その際に生み出される空地も次第に埋まっていくと思うので、先を見据えることは大事だと思う。

エリマネ組織について、一過性のイベントではなかなか根付かないため、継続的に

集まってもらうことが重要なので、エリマネ組織立ち上げには期待したい。

ARCADE の歩行者通行量の結果について、さんさん通りを通っていた方が仲見世商店街へ転換したのかと思っていたが、データを見ると新たに来てくれた方が多かったのではないと思う。来訪動機を情報収集して確認してほしい。

まちづくり WEB サイトをオープンしてもなかなか興味がないと見に行かないため、観光情報など興味がわくような情報とセットで発信してほしい。また、動画は自然に目に入るので、ラクーンの前などを積極的に使って広報してほしい。

事務局

社会実験の来訪目的のアンケート調査結果では、最も多い目的は買い物や食事であった。今後動画等で PR をすることによって、たまたま通りかかった方などが増えると思う。

小泉氏

若い人へアプローチし、まちづくりへの参画を促すことが重要で、例えばデジタルツールも話題作りには役立つし、デシディムを含む若い人が利用しているツールを積極的に導入することも有効だと考えている。それに加えて、現場に来たついでに、まちづくりに加わってもらうなど、仲間を増やしてアクティビティに参加できるような仕掛けがあればよいと思う。

また、パークレットを行うときに魅力がないとだめだと思うので、コンテンツを「OPEN NUMAZU」のようなキーワードで参加者に発信してもらうような取組を行うと、若い人が関心を持って集まってもらえるのではないか。

岸井氏

オブザーバーである国交省の方からの意見はどうか。

角田氏

OPEN NUMAZU の取組によってこれまでにない光景が広がっており、わくわくする風景が見られたのではないかと思う。引き続き尽力したい。

岸井氏

他にこれはという意見はあるか。

曾根原氏

10 年後、20 年後の沼津の将来像という非常に夢がある取組だと思うので、動画等で高校生に伝える機会があれば、大学卒業後に戻ってきてくれる可能性がある。高校生が沼津の将来像を知ることでもまちづくりの関心が芽生えると思う。

森本氏

地理総合が 2022 年から必修化されている。高校の先生方が内容について試行錯誤をしている段階なので、良い題材になる。

小泉氏

中学生の総合学習でも取り上げてよいと思う。未来を考える良い素材である。

福井氏

情報を提供するだけでなく、高校生からも意見をもらった方がいい。自分たちの地域の将来を自分たちで考えるという主体的な立場になった段階で、単なる勉強から自分の地域をどうするかに繋がることになる。

岸井氏

ヨーロッパの IBA エムシャーパークのように、OPEN NUMAZU というキャッチコピーに手を挙げてもらい、参加者になってもらうような方法もある。OPEN NUMAZU に参加しているということを言いたい人はなんでも良いから自由に手を挙げてほしいといえ、意外と多く挙がるかもしれない。沼津を開いていくというキャッチコピーをうまく活かしてほしい。

高田氏

社会実験という、実施後にどうなるのかが注目されがちだが、取組を繰り返して実践していくこと自体がまちづくりになっているのだと思う。いつまでも社会実験ということを強調しなくてもよいのではないか。出口を見据えて継続していくこと、形にしていくことを考えていただきたい。

岸井氏

今日いただいた意見を参考に、なるべく多くの方を巻き込み、市だけがやっている OPEN NUMAZU ではないとしないと長続きしない。少なくとも若い人達がまちにおり、様々なネットワークを持っている。まちなかに OPEN NUMAZU が広がっていくことを期待したい。

以上